

全国パーキンソン病友の会県支部 長堂 嘉賢

患者会・福祉団体便り

心の扉を開いたら

10月2日、パーキンソン病

友の会の交流会が3年ぶりに開催されました。新型コロナウイルスの影響でしばらく大勢で集うことができませんでしたが、「感染者やクアスタ1(感染者集団)を出さない」を合言葉に交流会に踏み切ったと聞きました。

参加された方々も不安はあったと思いますが、約70人が集まったことは、仲間との集いを楽しみにされていると思いき、うれしくなりました。

久しぶりの再会で近況を報告し、情報を共有されたと思います。いかがでしたでしょうか。

その後1時間、コメント・アングリア(女性3人組のユニット)の演奏会がありました。観客と同じ位置で緑の木々や太陽の光が映える舞台をバックにした、生演奏は素晴らしかった。同じ曲でもアレンジによつてこんなにも変わることを実感し、癒やしの時間が持てた交流会でした。

途中、涙ぐむ参加者に声を掛けたら、近況報告がとても参考になり、心温まる演奏に「自然と涙が出ます」と話し

ていました。コメント・アングリアの皆さま、ありがとうございました。

パーキンソン病は人それぞれ症状が違い、とても困難な病気です。自分の弟は発症して約20年になり、9年前に胃ろうを造設しました。たんの絡むようになり、吸引のために気管切開をしているので話すこともできません。入院し

て8年が経ちました。昨年はコロナ禍のため、仕切り越しの面会でしたが、今は顔をみて触れることができうれしいです。弟は7月に新型コロナウイルスに感染しました。とても心配しましたが、医療スタッフの懸命な治療のおかげで回復しました。

私は今のところ重い病気を患っていませんが、この先病気がかかった時には友の会の会員さんや弟のように頑張りたいと皆さんを見て思っています。

今回参加できなかった会員の方々にも大変お世話になりました。大盛況に交流会を開催できたのも、事務局の準備が整っていたおかげです。次の機会もご協力お願いします。

3年ぶり交流会、70人集う